



佐々木 賢三さん(82)

さかえさん(80)

米山町・新町
1958(昭和33)年12月入籍

いつつも一緒だと仲良くなるね

★結婚のきっかけは

【賢三】おらだち夫婦は、ほとこ同士でね。お互いに顔は知ってんだ。でも話をした記憶はねがったな。

【さかえ】初めて話をしたのは、お振る舞いするときだよ(笑)。

★結婚当時の思い出は

【賢三】親父が戦死しながらさ、行政区や親戚の寄り合いさしよつちゅう出掛けでね。まだ若かったが、いざがたねえ。

【さかえ】高校卒業して、習い事の学校に2年通った後に結婚。ご飯炊き覚える前に嫁いだの。んだが、佐々木家で料理を覚えただけ(笑)。

★当時の楽しみは

【賢三】乗り物が好きでさ。当時はメグロのバイクで、お母さん乗せて「田めぐり」したね。車を買ってからは、そっちこちさ行ったなあ。

【さかえ】トラック買ったとき、近所の人たちど石巻さ、潮干狩りさ行ったよ。荷台に乗ってながら、着いたときにはみんな土で真っ黒(笑)。

★現在の楽しみは

【2人】2人でドライブだな。たまに遠出して、秋田や青森さも行くよ。

★夫婦円満のコツは

【2人】一緒にいると、自然と仲良くなるもんだね。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

「自然豊かな『豊里』 思い出は尽きず」

昔、迫川の中流に「しまえ橋」があり、そのそばで育ちました。小さいときは、空気も水もきれいでした。今は、昔とだいぶ変わったと思います。

春はメダカ、ふなっこ、ジャリガニなどを取って遊ぶ。夏は、夕飯を終えた近所の人たちで、夕涼みしながらホテルの乱舞を見るのが風物でした。夏休みは、毎日迫川で泳ぐのが日課で、真っ黒に日焼けしてましたね。

冬は、沼や川でスケート遊び。「下駄スケート」から始まり、次は長靴に金属をベルトで縛る「金スケート」。その後、何年かたってスケート靴にな

佐藤 博さん(70)

東京豊里会計
豊里町(二ツ屋区)出身



りました。

うちは9人家族で、私は四男。幼い頃は、両親が朝早くから野良仕事に出かけていました。帰りは、夏でも冬でも日が落ちてからでした。両親がいない分、兄弟で家庭の仕事を分担していました。私の担当は風呂の当番。井戸からバケツに水をくんで、五右衛門風呂まで何度も往復しました。

子どもの遊び場の分校が、自宅の隣でした。時々遊びに夢中になり、仕事を思い出して家へ帰ると親が仕事から戻っていて、怒られた記憶があります。今となってはよい思い出です。

田植えが終わった頃の雨上がりの笠岳山。とても美しく雄大な山だと子どもに思いました。今見ると、当時の印象と違いますね。田舎に帰った時には、いつも笠岳山を眺め懐かしんでいます。

私は中学卒業後、東京の羽田空港近くの工場に集団就職しました。そんなわけで、登米市内の町名は分かりませんが、位置関係はうる覚えです。現在、食品卸業を営んでおり、もう少し働くつもりです。一線を退いたらゆつくり帰省し、市全体を見て歩くことを今から楽しみにしています。

おらほの道の駅

道の駅米山 「ふる里センターY・Y」



10万本の「チューリップまつり」

今月は道の駅米山「ふる里センターY・Y」の渡辺芳江さんに話を伺いました。

Q 陽ざしも暖かくなり、春が訪れました。この季節、道の駅米山で開催するイベントなどを教えてください

毎年恒例の「米山チューリップまつり」を4月23日から5月7日まで、道の駅米山西隣の圃場で開催します。

1畝の敷地に、60種類、約10万本のチューリップが皆さんをお待ちしています。赤、白、黄色、ピンクなど、色鮮やかなチューリップが咲き乱れ、例年多くの見物客でにぎ



さわやかな甘さが売りの「もういっこ」。宮城県のオリジナル品種です。

株500円。雨天の場合、販売中止もありします。入場料は無料ですので、皆さんぜひご来場ください。

Q チューリップまつり、楽しみですね。この時期の一番人気の商品を教えてください

この季節は、米山名物の「イチゴ」が大人気ですね。当道の駅では、大粒でさわやかな甘さが売りの「もういっこ」をメインに置いています。お立ち寄りの際は、ぜひご購入ください。

【問い合わせ】道の駅米山「ふる里センターY・Y」
☎0220(55)2747

まちの文芸 短歌

作品募集！ ●5月号は俳句・川柳です。住所・氏名・電話番号を記入し、3月27日(月)まで応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。応募者多数の場合選考して掲載します。

カラフルな甘い宝石金平糖、ほっと手の平にのせ心なごめり 今日一歩明日又二歩と前に行く 曾孫行け行け宇宙まで

三浦 智恵 (迫)

ひと滴はぐれ白鳥泣きぬれて どこへ行くやら母親いずこ

沼倉いね子 (中田)

年とりて寒さ骨身に強くしみ身を縮ませて炬燵でひと日

本宮やつの (中田)

ふんばって曾孫を見るまで生きたいと 三年連記の日記購ふ

小野寺典子 (中田)

冬枯れの庭に赤い実南天は 寒空の下明るくいたり 収穫も終りしあとに母は逝き 淋しきまして一人佇む

佐々木康子 (米山)

「農はだて」日向に集う嫗らは 近代化になり廃れゆくねと

水野トヨコ (米山)

春を待つ時く豆もなし我が家では 福も一服鬼も一服

折井由紀子 (米山)

遠き日に姉と訪ねし斎利雛 朝のテレビに会えてなつかし

三上久美子 (南方)